

子どもを守る  
文化会講演・討論集会

3月20・22日

●中●

関係者に聞く

県内の子もたちを取り巻く問題や現状、今集会の目的について、元コザ児童相談所所長で現在、沖縄大学非常勤講師を務める山内優子氏に聞いた。

# 親の貧困 構造的な問題

「沖縄の子もをめぐめる諸問題」をどう見るか。

「リーマン・ショック以来、給食費や授業料が払えないといった『子どもへの貧困』が全国的に注目を集めるようになり、逆の意味でショックを受けた沖縄の貧困はそれ以上の実態があり、しかもそれが復帰から38年の今も変わらず続いているからだ。貧困のしわ寄せがすべて子どもたちに行っている」

「児童相談所や女性相談所に長年勤務した経験から見えてきた現状は、

「980年代の児童虐待の調査結果で、親自身も疾病や離別、経済苦など二つの家庭の中に多くの問題を抱えていることが分かった。そして被虐待児は心と体に受けた傷を癒やす場もなく、その怒りを他者へ転嫁したり、物で心の飢えを癒やすべく万引などの問題行動をする子どもも分かった」

「高出生率の一方、離婚率が高

いことを見ると見るか。

「社会の経済状態が家庭に影響を及ぼすことの象徴だ。一人親世帯に対する国の調査の際、異動自に離婚理由を尋ねる質問項目を98年当時に加えた。最多は経済的理由だった。職のない夫が酒を飲

## しわ寄せ すべて子どもに

み、暴力を振るい、生活費を入れない。女性はやむを得ず別れざるを得ない構図が出来上がっていた。苦しむながらも多くの女性が子どもを育てるために離婚している」

「離婚し児童扶養手当を受けても、それだけで子どもは養えない。女性が働いても一家を養える職場は少なく夜働かざるを得ないが、公的な夜間保育所は今はお少くない。仕方なく親は子どもを家に置いて仕事に出る。子どもたちは寂しさから仲間と集まり、非行に走るという構図がある」

「高失業率が変わらない理由と現状をどう見るか。

「戦後65年たっても米軍基地が集中し、基地絡みの事件事故が後を絶たない。行政も政治家も基地問題に振り回され、子どもたちが悲鳴を上げ続けていたのに、抜本的な手立てを講じてこなかった。豊かになったのは基地の恩恵を受けている一部の人で、貧困層は変わらない。残念ながら貧困の再生産が既に起きており、状況は悪くなっている。むしろ格差が広がった。沖縄の親の貧困の問題は、個人の責任ではない。明らかに基地があることなどで構造的につくられた問題だ」

「今会議の目的は、

「社会や家庭、子どもが抱える問題が本土とは全く違う沖縄の現状を発信したい。子どもにかかわるあらゆる関係者が一堂に会し、解決していこうとしている。出生率全国一の沖縄は、未来の宝を一番多く持っている」といふこと。県民が「丸となってやるしかない」

### 山内 優子 元コザ児相所長



島内を巡回した子ども達の現状について語る山内優子氏（左）曰く、那覇市の沖縄大学

聞き手・佐藤ひろる